

Japanese Red Cross Narita Hospital

放射線科

放射線を使った検査、治療を行っています。主な装置として X線 CT(MDCT) 2台、MRI装置2台 (1.5テスラ)、ガンマカメラ1台、血管造影装置2台、放射線治療装置1台、PACS (医用画像管理システム) を有しています。64列 MDCTの導入により心臓冠動脈3DCT検査や脳血管の3DCT検査が容易になり血管系の診断に役立っています。また、多目的 X線テレビ装置の導入に伴い、精度の高い検査が可能になりました。院内だけではなく、近隣の開業医や病院から、CT、MRI、RI検査の依頼を受けており、放射線科医のレポートを依頼先に送付しています。放射線治療に関しても、治療計画専用の CTを導入することにより精度の高い治療を当院の症例だけでなく他施設からの紹介患者さまにも多数おこなっています。

また、当院は第3次救急救命センター、災害拠点病院、特定感染症指定病院として地域の役割を担っており、幅広い豊富な症例を経験することができます。



放射線科研修指導責任者
岡田 淳一

放射線科部長 /
日本医学放射線学会専門医、日本核医学会専門医

■研修指導医
副部長 / 東辻 由雅 (日本医学放射線学会専門医・日本核医学会専門医)
副部長 / 鳥 英樹 (日本医学放射線学会専門医・日本インターベンショナル学会専門医)
副部長 / 町田 南海男 (日本医学放射線学会治療専門医)
副部長 / 眞山 靖史 (日本医学放射線学会専門医・日本核医学会専門医)
副部長 / 東出 高至 (日本医学放射線学会専門医・日本インターベンショナル学会専門医)

01 研修期間

2年以上

02 目的

放射線診断、放射線治療、核医学を学び、日本医学放射線学会専門医を目指す。

03 各科研修システムの特徴

救急から癌治療まで、幅広い豊富な症例を経験できる。千葉大学医学部附属病院放射線科と交流している。臨床各科との連携が密であり、血管造影も習熟できる。

04 代表的な週間スケジュール

(定期的に行なわれている検査を含む)

	月	火	水	木	金
午前	放射線治療	読影	読影	核医学検査	読影
午後	ダイナミックCT	CT生検、ダイナミックMRI	血管造影	胸部X-P読影	放射線科症例検討会

05 研修期間中に経験する症例等について

救急から癌診療まで、小児から老人に至る病態、疾患。

06 研修期間中に習得すべき手技

CT、MRI、核医学、血管造影の手技と読影能力をマスターする。

放射線治療の基礎を学ぶ。

07 研修修了後の進路について

特に千葉県では放射線科医師が不足している。基幹病院や千葉大学医学部附属病院等に就職することが可能である。